

2025年度 自己評価

2026. 3. 25

I 「保育の計画性」についての評価結果及び改善策

改善策

- ・めぐみ幼稚園として、どのような保育を行うかについて、時間をかけての話し合いが必要である。めぐみとしてのオリジナリティーの確立と同時に、幼稚園としての年間を通しての見通しが持てるようにしたい。

II 「保育の在り方、幼児への対応」についての評価結果及び改善策

◇改善策

- ・基本的な園児に対する対応については、よくできていると思う。保育者はみな、熱い思いを持って、日常の保育にあたっている。しかし、年々変わりつつある、保育をめぐる環境、状況は、保育者にも絶えずアップデートが求められている。ここをきちんと課題として共有できたらいいと思える。

III 「保育者としての資質と能力」 についての評価結果及び改善策

◇改善策

- ・個人の資質の向上の内容に、保育者集団としての取り組みを反映させたい。めぐみ幼稚園としての研究・研修の課題を設定して年間を通して取り組みをすることも検討したい。

IV 「保護者への対応」についての評価結果及び改善策

◇改善策

- ・クラス日より、めぐみの子の内容の充実と共に、個人個人に対する連絡の仕方を丁寧に、わかりやすく工夫をしていく。新年度から本格運用される「コドモンの活用」についても、考えていく。

V 「地域の自然や社会とのかかわり」についての評価結果及び改善策

◇改善策

- ・小学校との連携は、この5年で大きく前進してきた。カリキュラムの作成もできた。今後は、その中身、取り組みを充実させていきたい。地域との関りでは、まだまだできることが多いと思える。身近なところから、スタートしていきたい。

VI 「研修と研究」についての評価結果及び改善策

◇改善策

- ・研修については、義務的に受けるものも多いが、そのすべてが保育に反映されるものではない。より実践的な内容を、選んで学べる場を作ることが求められている。多忙な中、先生方は、よく取り組みをされている。

*全体を通して

- ・保育者個人ごとの反省は、めぐみの先生は自分にとっても厳しめに評価されているようである。個々の思いを、今一度、全体で交流していき、保育者間に共有できるようにしていく必要がある。
- ・次年度から、教職員数の減もあり、これまでできていた、クラスへの複数配置など、これまでかなり手厚くできていた人数の面でのことは、少なくなる。園の体制として、その中でも、最大の努力をしておかねばならない。ここについて、さらなる教職員の協力、連帯が求められてくる。これまで長く実践してきた内容に加えて、新たな体制でとり入れられる「異年齢混合保育」の充実を図り、「全員が担任」の思いを持ち、園児と向かい合いたい。
- ・保育に関して、全国的にはたくさんの問題が報告される中、私たちは、それらの事例に学び、決して、めぐみにおいて起きることの無いように、年度当初から、確認をしていく必要が求められている。
- ・幼稚園としての年間の取り組みの中に、継続性、連続性を考えていく。不易と流行の考えのもと、現在の園児たちに、最善、最良の保育をしていけるように、今一度、カリキュラムに立ち返りたい。